

六甲山地と神戸市北区の一部で確認した両生類

青山 茂 (ひとはく地域研究員)

はじめに

ウシガエルはアカハライモリの幼生を含む様々な在来両生類を捕食することが確認されている(平井, 2004 など). 室井(1959, 1962, 1982)は、六甲山上の多くの池にはアカハライモリが生息し、平地の溜池にすむイモリはウシガエルなどに食い荒らされてしまったが、六甲山上には幸いにもウシガエルは生息しないと述べた。六甲山地の中腹にある神戸市立森林植物園にはすでにウシガエルが生息している(土井ほか, 2016)。そこで、六甲山上や周辺地域におけるウシガエルを含めた両生類の生息状況を調べることを目的とした。

調査地と方法

調査地は①六甲山上, ②再度公園周辺, ③菊水山, ④神戸市北区山田町原野南部, ⑤あいな里山公園, ⑥キーナの森である。①, ②, ③は神戸市灘区六甲山町, 同北区山田町下谷上などの六甲山地に所在する。⑤, ⑥はいわゆる西神丘陵にあたる神戸市北区山田町藍那に所在する。

調査期間は2020年～2021年であった。水辺などで両生類を発見した際はデジタルカメラ(キャンオン, PowerShot SX70 HS)で撮影・記録した。

結果と考察

各調査地域での両生類の確認結果を表に示す。

表 六甲山地と神戸市北区の一部で確認した両生類

	①六甲山上	②再度公園周辺	③菊水山	④山田町原野南部	⑤あいな里山公園	⑥キーナの森
ニホンヒキガエル	○	○	○	○		○
ニホンアマガエル				○	○	
タゴガエル	○	○	○			
ニホンアカガエル		○	○	○	○	○
トノサマガエル		○		○	○	○
ツチガエル		○				
ウシガエル	○	○	○	○	○	○
ヌマガエル				○	○	
モリアオガエル	○	○	○			○
シュレーゲルアオガエル	○	○		○	○	○
セトウチサンショウウオ		○		○	○	○
アカハライモリ	○	○				

調査地別の確認種数は再度公園周辺が最多で10種、菊水山が最小で5種であった。

種別の確認調査地数は最多がウシガエルで6調査地、最小がツチガエルで1調査地であった。

特定外来生物のウシガエルは、標高200mから800mの調査した6地域すべてで確認され、既往研究で知られている神戸市西区の低地も含めると広い標高範囲に生息していることがわかった。

アカハライモリの生息池ではウシガエルは見られなかった。

普通種であるアマガエルとヌマガエルは原野地域南部とあいな里山公園で確認できたが、六甲山地の3地域やキーナの森では確認できなかった。本種は繁殖場所となる水田などが付近にないと生息できないようである。

本研究では、たも網などの採集道具を使用せず、離れたところからレンズを通して確認できる両生類のみを記録した。今後、採集道具を使用するなどして、より詳細に調べる必要がある。また、本研究

で確認できなかったカジカガエルやヤマアカガエルの生息についても調べる必要がある。

本研究は以下の報告をまとめたもので、それぞれの詳細についてはこれらを参照されたい。

青山 茂 (2020a) 六甲山地に所在する再度公園周辺で確認した両生類. 兵庫陸水生物, 71: 11-18.

青山 茂 (2020b) 藍那の2公園で確認した両生類. 兵庫陸水生物, 71 : 19-26.

青山 茂 (2021a) 六甲山系菊水山で確認した両生類. 兵庫陸水生物, 72 : 15-18.

青山 茂 (2021b) 六甲山上で確認した両生類. 兵庫陸水生物, 72 : 19-23.

青山 茂 (2021c) 神戸市北区山田町原野地域南部で確認した両生類, 兵庫陸水生物, 72 : 25-28.